

まちづくりの柱

第4節 地域環境

【施策体系】

分野

まちづくりの目標

4-1 自然環境

おいしい水や空気に恵まれ、豊かな自然が継承されています。

4-2 環境衛生

環境に配慮した意識が定着し、循環型社会になっています。

4 - 1 自然環境

■現状と課題

- 温暖化など地球規模での環境問題が深刻化するなか、CO₂削減として、自然エネルギーの活用など環境に対する取り組みを通して、住民の意識改革を促すことが求められています。
- 水と緑に恵まれた豊かな自然は垂井町にとって貴重な財産です。この財産を最大限に活かしながら、ハリヨやホテルなどとふれあう機会や場の積極的な拡充が必要となっています。
- 自然環境の適切な把握・保全に努め、学習活動の促進など、豊かな自然を継承するための共通理解を高めることが求められています。

■目標達成に必要な施策と成果指標

こんなまちを目指します (まちづくりの目標)	おいしい水や空気に恵まれ、豊かな自然が継承されています。			
こんなことに取り組みます	施策		担当課	
	自然環境の保全		住民課 産業課 生涯学習課	
行政と住民・事業者の役割	緑化の推進		建設課 産業課	
	行政の役割		住民・事業者の役割	
	○環境教育を推進し、住民意識の高揚を図ります。 ○豊かな自然環境を保全し、環境負荷が少なくなる取り組みを行います。		○自然環境への意識を高め、環境にやさしいライフスタイルへの転換を図ります。	
目標達成度を測る指標	初期値 (H18)	中間値 (H24)	目標値	
			H24 (5年後)	H29 (10年後)
川の水や空気がきれいなことに満足している住民の割合	78.8%	88.5%		
地域の清掃、美化などの活動に参加した住民の割合	46.5%	51.8%		

4 - 2 環境衛生

■現状と課題

- ごみの細分化による分別を推進し、自然との共生と循環型社会の構築を目指すため、3R〈リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再資源化）〉などの取り組みが必要となっています。
- ごみ問題は私たちの日常生活に起因するものです。環境に対する問題意識を高め、地域ぐるみによる環境保全運動の体制づくりが不可欠となっています。
- 清潔で美しい環境を形成するため、住民の理解と協力を求めながら生活雑排水による河川の水質汚濁を防止し、快適な生活環境の向上に努める必要があります。
- 一般廃棄物処理施設の処理量が年々増加傾向にあり、最終処分場も含め処理能力にも限界があることから、今後の対応策の検討が必要となっています。



リサイクル施設「エコドーム」

（平成 24 年 12 月利用開始）

■ 目標達成に必要な施策と成果指標

こんなまちを目指します (まちづくりの目標)	環境に配慮した意識が定着し、循環型社会になっています。				
こんなことに取り組みます	施策		担当課		
	ごみの減量化の推進		住民課		
	不法投棄の防止		住民課		
	環境汚染の未然防止		住民課		
	生活環境の向上		住民課		
	衛生施設の整備		住民課		
行政と住民・事業者の役割	行政の役割		住民・事業者の役割		
	○ごみの減量化に取り組み、リサイクル社会の構築を目指します。		○環境問題を意識します。 ○資源ごみのリサイクルに取り組みます。		
目標達成度を測る指標	初期値 (H18)	中間値 (H24)	目標値		
			H24 (5年後)	H29 (10年後)	
	住民1人当たりの可燃、不燃ごみ排出量(1日)	850g	766g(H23)	800g	—
	住民1人当たりのごみ総排出量(1日)	1,069g	898g(H23)	—	750g
	ごみのリサイクル率	18.10%	18.36% (H23)	—	25%
	大気(ダイオキシン類)測定値 (ゴミ焼却施設) ※国基準 5ng-TEQ/m ³	0.12ng-TEQ/m ³	0.074 ng-TEQ/m ³	0.12ng-TEQ/m ³	0.12ng-TEQ/m ³
	河川のBOD※測定値 (10箇所平均値)	1.40mg/L	0.90mg/L		
ごみ、し尿の収集状況に満足している住民の割合	74.0%	80.0%			

※住民1人当たりの可燃、不燃ごみ排出量：《指標変更》他市町村との比較に適さないため廃止し、新たに「住民1人当たりのごみ総排出量(1日)」を設定しました。

※住民1人当たりのごみ総排出量(1日)：《中間値》ごみ総排出量 8,999t ÷ 総人口(人口動態統計調査結果 岐阜県統計課調べ) 27,375人 ÷ 366日

※ごみのリサイクル率：《計算方法変更》他市町村との比較に適さないため。《中間値》(直接資源化量 336t + 中間処理後再生利用量 137t + 集団回収量 1,180t) ÷ (直接焼却量 6,882t + 直接最終処分量 0t + 焼却以外の中間処理量 603t + 直接資源化量 336t + 集団回収量 1,180t) × 100

※BOD：Biochemical Oxygen Demand(生物化学的酸素要求量)の略。水中に含まれる有機性物質が、微生物によって生物化学的に酸化されるときに消費される酸素の量。この数値が大きいほど汚れの程度が高くなる。

